酒田市と文化交流協定を締結

奥州藤原氏が紡いだ絆を未来へ

町と山形県酒田市は6月29日、文化交流協定を締結しました。両市町は奥州藤原氏が紡いだ縁で歴史上の関わりが深く、20年ほど相互に交流を続けており、協定の締結により、文化面を中心とした交流をさらに推進していきます。町が文化交流協定を結ぶのは、今回が初めてです。

文化交流協定の締結を笑顔で喜び合う酒田市の丸山至市長（左から２人目）と、青木町長（同３人目）ら＝６月29日、平泉文化遺産センター

同日は締結式を平泉文化遺産センターで行い、両市町長や議会議長ら10人余りが出席。酒田市の丸山至市長と当町の青木町長が協定書に署名し、締結を喜び合いました。

丸山市長は「平泉とつながることで、酒田のアイデンティティーを高めていきたい」、青木町長は「酒田とのつながりを後世に残していくため、今回の協定は平泉にとって大きなものになる。末永い交流をお願いしたい」と語りました。

協定の名称は「奥州藤原氏が紡いだ酒田市・平泉町の絆を未来につなぐ文化交流協定」。締結により、両市町民の訪問交流や民俗芸能団体による相互交流、祭りを通じた交流を進め、歴史的つながりを理解するための歴史講演会の開催なども予定しています。

両市町は、奥州藤原氏の三代秀衡の妹とされる徳尼公（とくにこう）が平泉から酒田に36人の従者とともに逃れ、酒田湊の繁栄を築いたと伝えられているなど、歴史的な関わりが深く、約20年前から、祭りなどで相互に交流を続けてきました。

「チーム平泉」サポーターを設置

第1号に藤澤さん（元町世界遺産政策監）

町は、地域振興につながる提言や助言をする『チーム平泉』サポーター」制度を創設し、元町世界遺産政策監の藤澤義人さん（64）＝宮城県自動車協会専務理事、**写真右**＝を7月7日付で第1号のサポーターに委嘱しました。

同日に役場で藤澤さんに委嘱状を手渡した青木町長は「新たな『チーム平泉』を前に進めるため、お力添えをいただきたい」と期待。藤澤さんは「観光や交通の分野で住民目線のアドバイスができれば」などと話しました。

藤澤さんは平成20～21年度に町世界遺産政策監として、平泉の世界遺産登録に向けた取り組みに尽力。平成30年度から町地域公共交通会議委員も務めています。

同サポーターは、町在住・出身者や町にゆかりがあり、地域振興に貢献している人などを対象に町長が委嘱。町への企画提言や改善のアドバイスなどを行います。

「束稲山麓地域」のＰＲへロゴマークを募集

１月に日本農業遺産に認定された「束稲山麓地域」（長島地区、一関市舞川地区、奥州市生母地区）を広くＰＲし、ブランド化などを図るため、ロゴマークを募集します。

応募の要件などは、二次元コードから確認するか、問い合わせてください。

■応募締切…８月31日（木）

■問い合わせ先

農林振興課　☎46-5564

ロゴマークの応募は、こちらから→

７月15、16の両日に町内で開催された「平泉水かけ神輿」。15日は宵宮とひらいずみ夜祭りが観自在王院跡で開かれ、16日は観自在王院跡を発着点に神輿渡御が繰り広げられました。４年ぶりに小中学生が参加し、大中小３基そろっての神輿渡御が実現しました。

沿道には多くの人が詰めかけ、神輿に清め水を浴びせ、町内はにぎわいを見せました。神輿渡御の様子を写真で紹介します。

豪快に４年ぶりの３基渡御

平泉水かけ神輿

神輿渡御の途中、掛け声で気合いを入れる平泉中の生徒たち

４年ぶりに大中小の神輿３基の渡御が実現した＝観自在王院跡前